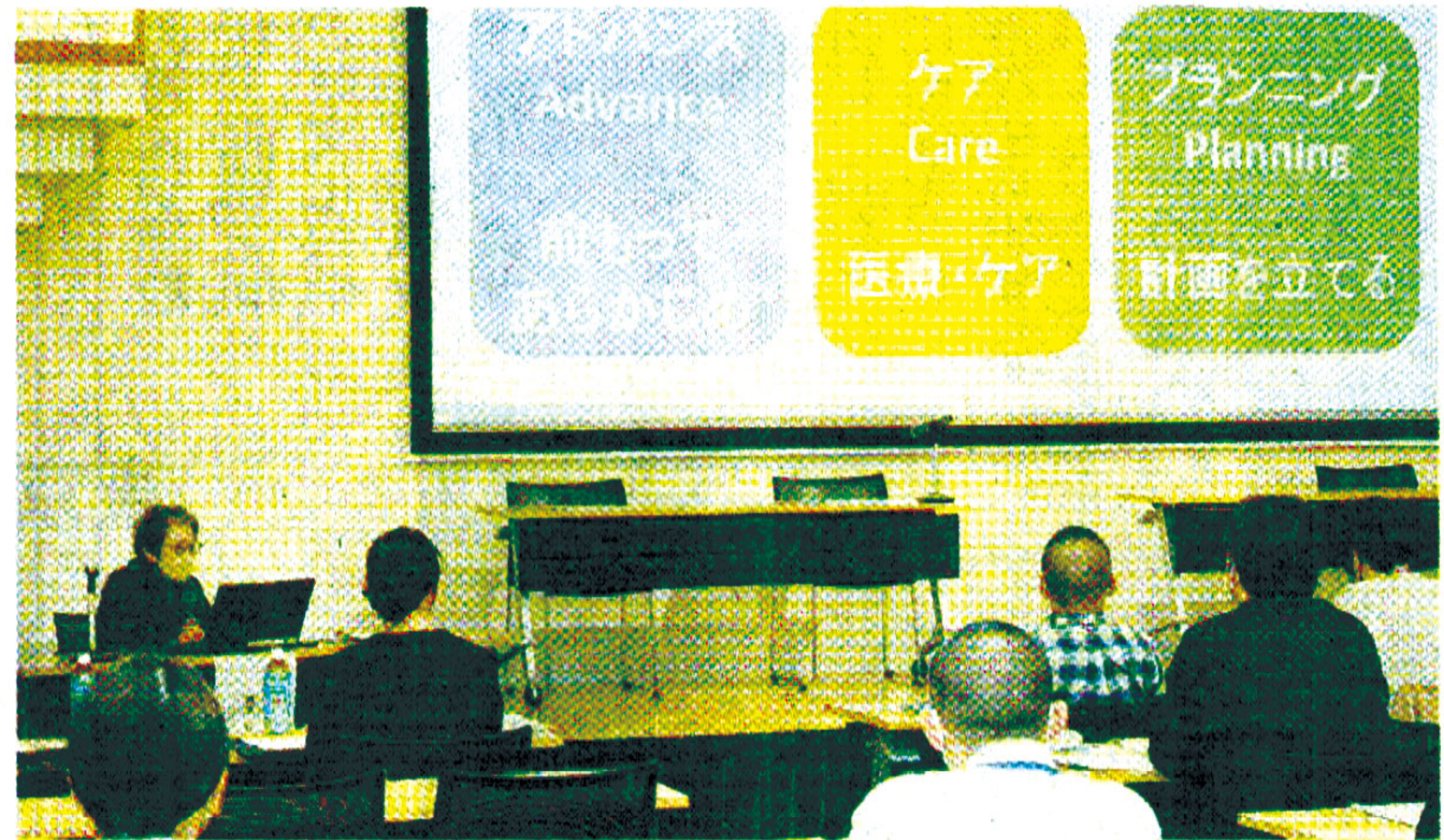


高知市

終末期前に「人生会議」

ケアマネらフォーラム



人生会議について学んだフォーラム
(高知市追手筋2丁目のオーテピア高知図書館)

終末期の医療・ケアの方針を本人や家族、医療従事者らが事前に話し合う「人生会議（ACPIアドバンス・ケア・プランニング）」について学ぶフォーラムが11日、高知市で開かれた。大学教授やケアマネジャーらが「元気な時に対話を重ねて」と訴えた。

県立大学看護学部森下安子特任教授(67)は、ACPを「延命治療するかどうかだけの話でなく、最期ま

で自分らしく生きるためのプロセスだ」と説明。県内の平均寿命と健康寿命には10年前後の差があると紹介し、「終末期は希望を伝えるのが難しくなる。自分が何を大事にしたいか、元気な時から話し合っておくべきだ」と語った。

同市内の居宅介護支援事業所に勤めるケアマネの岡林由美子さん(56)は、慢性疾患が悪化した患者の家族から「本人には余命を伝え

ないで」と言われ、葛藤した経験を紹介。「いざという時、本人に大事なことを言えない風潮がまだある」「家族を含めて日頃の対話を促す支援が必要だった」と振り返った。

森下教授も「いざ、最期

をどうするかというのはなかなか聞きにくい。日々の何げない一言に、その人の価値観をひもとくヒントがあるはず」と助言した。

フォーラムは市が主催し、約40人が聞き入った。

(新妻亮太)